

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果 (研究科)
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態(講義・演習・実験等)の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導(院) 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導(専院)
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価(評価方法・評価基準の明示) 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部と連携した5年一貫教育体制を確立し、研究科博士課程前期課程開講科目の学部生受講を促すことにより、講義形式の科目を増やす。	→学部受講者数、学部から大学院進学者数。	C	B	B	B	/
2. 演習担当教員に加え、複数教員による集団指導体制の強化により、学位取得プロセスに位置付けた研究指導体制を確保する。	→共同演習開講数および受講者数。	B	B	B	B	/
3. 博士課程後期課程では、ワークショップ方式の科目を新設し、大学院生が自著の研究論文の報告、論文サーベイする能力を向上させる。	→院生の国際学会報告者数および報告件数、国内学会報告者数および報告件数、経済学ワークショップ報告者数および報告件数。	C	B	B	B	/
4. 博士課程後期課程学生に学部科目などを担当させ、授業担当能力を高める。	→博士課程後期課程学生の学部科目担当者数。	D	C	C	C	/
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	2012年度よりの新カリキュラムとして専門科目のナンバリング（標準・応用・発展）が完成し、学部と大学院との連携が実施され、2013年から、学部・大学院との合併科目の授業が開始された。
目標2	2012年度において共同演習開講者は4名（前期課程生）で、2013年度は2名（後期課程生）であった。
目標3	2012年度は後期課程は2年2名のみであり両者とも2011年度にワークショップを実施したため、今年度の開催はなかった。
目標4	2010年度より研究員に学部科目を担当させ、教歴をもたせることについては継続して実施している。しかし、後期課程生の授業担当については実施できていない。
備考	